

質問書に対する回答

(工事名) 道東自動車道 新得工事

質問事項と回答

番号	質問事項	回答
1	特記仕様書 P42 長尺鋼管先受工の注入速度が 5ℓ/min と記載されておりますが、セメント系の注入速度は 15ℓ/min ではないでしょうか。ご確認願います。	長尺鋼管先受工のセメント系の注入速度は 15ℓ/min となります。
2	特記仕様書 P47 30-8-3 洗堀防止対策工 「この契約単価にはコンクリートブロックの設置面の不陸整正、根固めコンクリートブロックの運搬・設置、コンクリートの打設等施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用」とありますが。天端コンクリートや現場打ちコンクリートも対象でしょうか。	そのとおりです。
3	特記仕様書 P47 30-8-3 洗堀防止対策工 「P2 橋脚基面上の洗堀防止を目的として」とありますが、図面及び数量計算書は既設 P3 橋脚部の数量も算出されています。既設 P3 橋脚部は積算対象外でしょうか。	洗堀防止対策工の数量にペンケオタソイ川橋 I 期線（上り線）P3 橋脚は含まれます。

4	<p>特記仕様書 P50 30-8-6 仮設構造物工 支持杭及び土留め杭の施工方法について記載がございますが、KP3の鋼管杭の記載がございません。 KP3の工法は「ウォータージェット併用バイブロハンマー」でしょうかご教示願います。</p>	<p>KP3の工法は「ウォータージェット併用バイブロハンマー」となります。</p>																														
5	<p>特記仕様書 P55 30-10 率計上工事について 率計上工事の対象となる金額には諸経費①の対象となる割掛工事の金額も含まれると考えてよろしいでしょうか。</p>	<p>そのとおりです。</p>																														
6	<p>特記仕様書 P56 30-11-1 補正対象項目及び補正方法 (3) 稼働率の補正の項目に表土の記載がございませんが表土における標準稼働率についてご明示願います。</p>	<p>特記仕様書 30-11-1 (3) ②をご確認ください。</p>																														
7	<p>橋梁下部工広内川設計図 88/108 橋梁下部工広内川橋仮栈橋（下部工）数量において、以下の部材重量に相違が有ります。 ※正しい部材重量をご提示願います。</p> <table border="1" data-bbox="349 1031 1211 1318"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>主な規格</th> <th>単位</th> <th>発注図</th> <th>数量計算書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>継ぎ材</td> <td>[-200*90*8*13.5</td> <td>t</td> <td>5.534</td> <td>6.001</td> </tr> <tr> <td>プレス材</td> <td>L-130*130*12</td> <td>t</td> <td>7.235</td> <td>8.229</td> </tr> <tr> <td>ボルト</td> <td>F10T M22</td> <td>t</td> <td>1.055</td> <td>1.130</td> </tr> <tr> <td>その他部材</td> <td>受桁継材、ネジ、スプレート</td> <td>t</td> <td>3.783</td> <td>3.904</td> </tr> <tr> <td>合計重量</td> <td>※受桁、桁受等含む</td> <td>t</td> <td>41.296</td> <td>42.952</td> </tr> </tbody> </table>	項目	主な規格	単位	発注図	数量計算書	継ぎ材	[-200*90*8*13.5	t	5.534	6.001	プレス材	L-130*130*12	t	7.235	8.229	ボルト	F10T M22	t	1.055	1.130	その他部材	受桁継材、ネジ、スプレート	t	3.783	3.904	合計重量	※受桁、桁受等含む	t	41.296	42.952	<p>設計図 広内川橋 仮栈橋計画図 (1/3) 仮橋部材表を正としてお考えください。</p>
項目	主な規格	単位	発注図	数量計算書																												
継ぎ材	[-200*90*8*13.5	t	5.534	6.001																												
プレス材	L-130*130*12	t	7.235	8.229																												
ボルト	F10T M22	t	1.055	1.130																												
その他部材	受桁継材、ネジ、スプレート	t	3.783	3.904																												
合計重量	※受桁、桁受等含む	t	41.296	42.952																												

8	<p>橋梁下部工広内川設計図 88/108、89/108 設計図 88/108 の広内川橋仮橋部数量表において（土留杭）（H-350*350*12*19 L=7.5m）の杭本数が 11 本とありますが、10 本ではないでしょうか。ご確認願います。</p>	<p>土留杭（H-350×350×12×19 L=7.5m）は広内川橋 仮橋部下部工詳細図（1/8）KA1で6本、広内川橋 仮橋部下部工詳細図（7/8）KA2で5本の計11本となります。</p>
9	<p>参考図 12/40 高盛土排水工詳細図における「材料表 堅ふた工」1箇所当りの数量が0.900tとありますが、0.09tになると思われます。ご確認をお願いします。</p>	<p>高盛土排水工詳細図における「材料表 堅ふた工」1箇所当りの鉄筋の数量は0.090t/箇所が正しい数量となります。</p>
10	<p>参考図 47/56 48/56 坑口部の吹付コンクリート（t=200）の基準強度についてご教示願います。</p>	<p>吹付コンクリート（t=200）の基準強度は設計要領第三集 トンネル建設編 「5-3-2 坑口の位置及び坑口付け」及び設計要領第一集 土工建設編 「3-2 コンクリートおよびモルタル吹付工」に記載のとおり、15N/m²となります。</p>
11	<p>金抜設計書 番号110 覆工防水 A(B)の数量が15,858m²とありますが、この数量では避難連絡工分が未計上と思われます。ご確認願います。</p>	<p>覆工防水工 A(B)の数量は、本坑部の15,858m²としております。 なお、避難連絡坑部は監督員が必要と認めた場合は設計変更の対象となります。</p>
12	<p>金抜設計書 番号81 トンネル掘削 CII-K-S 当該避難連絡工の掘削は機械方式による割岩掘削を用いるものとなっておりますが、割岩掘削工法を使用する際に発生する特許料については当該項目内に計上する考えでよろしいでしょうか。</p>	<p>割岩掘削工法に使用するすべての費用を含みますので、御社の施工計画に基づき必要な費用を計上してください。</p>
13	<p>割掛対象表参考内訳書 【仮設備工事費】の吹付設備費の数量内訳において設備の設置期間が約11ヶ月とありますが、約13ヶ月ではないでしょうか。</p>	<p>仮設備工事費の吹付設備費は、約12.2ヶ月となります。</p>

1 4	<p>割掛対象表参考内訳書</p> <p>【仮設備工事費】の積卸し設備費の数量内訳に 「掘削の単独施工期間一約 11 ヶ月、覆工作業の単独施工期間一約 1 ヶ月、タイヤ方式」とありますが 「掘削の単独施工期間一約 13 ヶ月、覆工作業の単独施工期間一約 1 ヶ月」ではないでしょうか。</p>	<p>仮設備工事費の積卸し設備費は掘削の単独施工期間一約 1 2 . 2 ヶ月、覆工作業の単独施工期間一約 1 ヶ月となります。</p>
1 5	<p>費用計上について (2 重計上の防止)</p> <p>工事用進入路造成の撤去材の本線路体盛土流用の場合の「敷均し・転圧」割掛費用に含めないとのことですが、金抜設計書のどの単価番号で計上すればよろしいでしょうか。</p>	<p>特記仕様書 3 0 - 2 - 1 道路掘削・客土掘削となり、共通仕様書 2 - 6 - 7 支払に記載のとおり、これらの項目には「敷均し・転圧」の費用が含まれています。</p>
1 6	<p>費用計上について</p> <p>基礎杭の掘削残土を本線の路体盛土に流用する場合の「敷均し・転圧」は金抜設計書のどの単価項目に計上すればよろしいでしょうか。</p>	<p>基礎杭に計上ください。</p>
1 7	<p>費用計上について</p> <p>路盤排水工で発生する残土を本線路体盛土に流用する場合の「敷均し・転圧」は金抜設計書のどの単価項目に計上すればよいでしょうか。</p>	<p>路盤排水工に計上ください。</p>
1 8	<p>建設機械の豪雪補正について</p> <p>硬質地盤クリア工法で使用します油圧式杭圧入機は豪雪補正の対象でしょうか。</p>	<p>機械損料の補正については土木工事積算基準（令和 3 年度版（東日本高速道路株式会社、中日本高速道路株式会社、西日本高速道路株式会社）第 5 編 機械器具経費 5 - 1 積雪地域における補正を行います。</p>
1 9	<p>建設機械の豪雪補正について</p> <p>清水工事での回答ではゼロクリアランス工法で使用する油圧圧入機は豪雪補正の対象ではないとのことでしたが、新得工事でも同様と考えてよろしいでしょうか。</p>	<p>機械損料の補正については土木工事積算基準（令和 3 年度版（東日本高速道路株式会社、中日本高速道路株式会社、西日本高速道路株式会社）第 5 編 機械器具経費 5 - 1 積雪地域における補正を行います。</p>

20	特記仕様書 P31 30-2-5 構造物基礎 (3)土留め工種別の備考に「中古材」との記載がございます。また特記仕様書 P50 の仮栈橋の材料は「中古品の購入材」と記載がございます。この両者の違いについてご教示願います。	両者に違いはなく、中古材を購入するとしています。
21	清水工事の質問回答において「仮設目隠工」の中古材については「新品価格の90%」を上限とするとの回答でした。それは仮設構造物に使用する、鋼矢板、土留め支保工及び仮栈橋も準ずるということでしょうか。	そのとおりです。